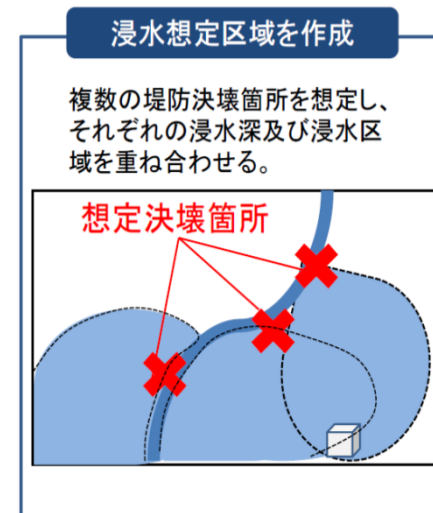


想定最大規模降雨時の洪水浸水想定区域図の作成（1）

【洪水浸水想定区域図の作成について】

- 管理河川において、築堤部分における破堤（堤防決壊）を想定した場合の浸水解析を行います。
- この各破堤点別の浸水結果をもとに、メッシュ毎の最大浸水深を包絡して、これを図化したものが浸水想定区域図です。

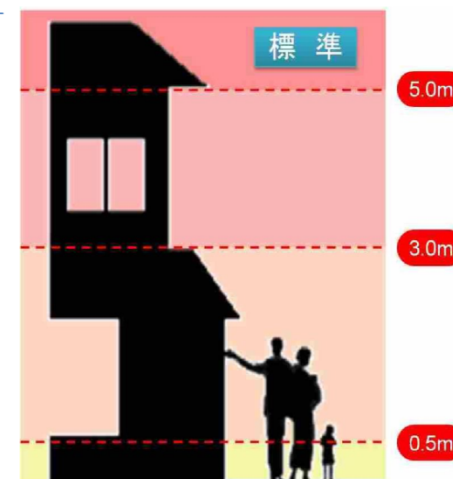


【浸水深の表示方法】

- 浸水深等の閾値は、
 - 一般的な家屋の2階が水没する5m
 - 2階床下に相当する3m
 - 1階床高に相当する0.5mに加え、これを上回る浸水深を表現するため、10m、20mの6段階で表示します。

浸水した場合に想定される水深（ランク別）

- 0.5m未満の区域
- 0.5m～3.0m未満の区域
- 3.0m～5.0m未満の区域
- 5.0m～10.0m未満の区域
- 10.0m～20.0m未満の区域
- 20.0m以上の区域



想定最大規模降雨時の洪水浸水想定区域図の作成（２）

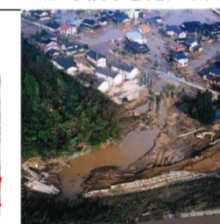
【その他、避難活動に資する情報の提供】

- 浸水想定区域図の他、「家屋倒壊等氾濫想定区域」、「浸水継続時間」の情報を提供します。
- 浸水時に、身を守る手段として、水平避難（避難所等への避難）だけでなく、垂直避難（建物の高い階への避難）も有効とします。
- しかし、垂直避難場所において、①氾濫水の流れの力が強くなると、**避難した建物そのものが倒壊する**恐れや、②氾濫水の浸水継続時間が長くなると、**長期間孤立**してしまう恐れがあります。
- こういったことを防ぐため、垂直避難の適否の判断等に活用する資料として、「①**家屋倒壊等氾濫想定区域図**」や「②**浸水継続時間図**」を作成します。



○ 洪水時に家屋倒壊等のおそれがある区域を、「洪水時家屋倒壊危険ゾーン」として浸水想定区域図に表示し、屋内安全確保（垂直避難）の適否の判断等に活用することとしている。
（洪水浸水想定区域図作成マニュアルに規定）

家屋倒壊危険ゾーンの表示例



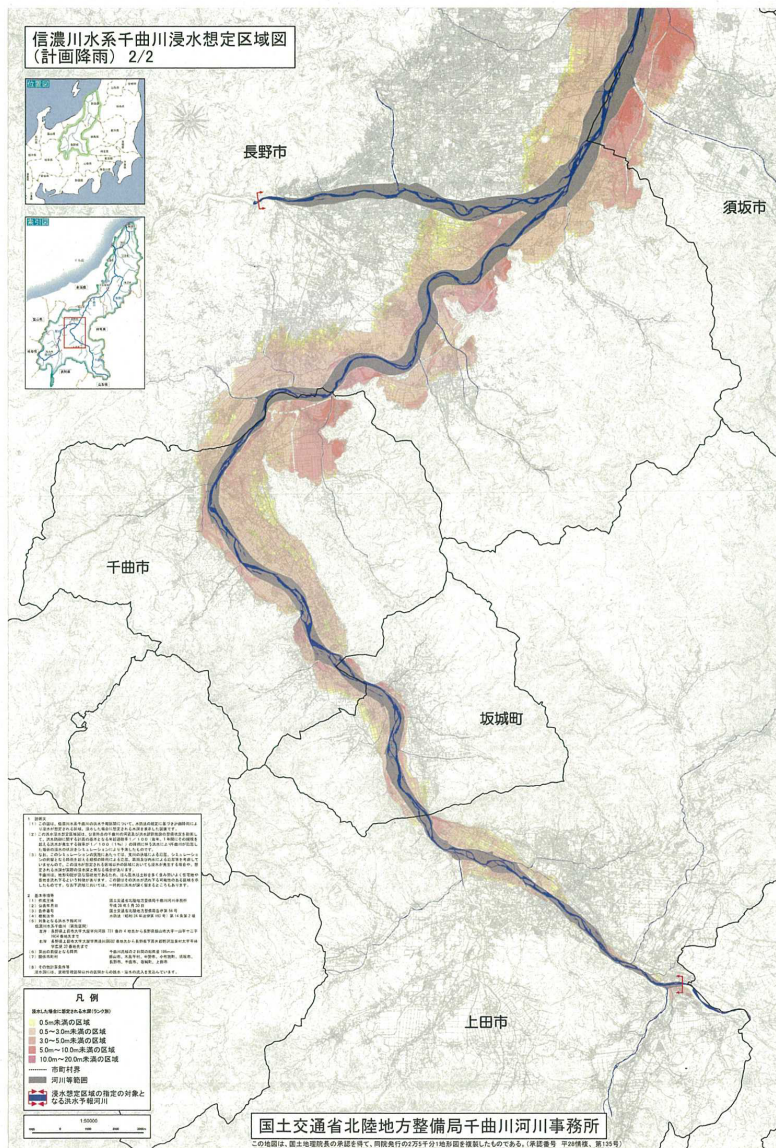
堤防決壊に伴う家屋倒壊等



河岸侵食に伴う家屋倒壊

想定最大規模降雨時の洪水浸水想定区域図の作成 (3)

【浸水想定区域図 計画降雨】



【浸水想定区域図 想定最大規模】

